

刊夕日四十月六

# 常磐每日新聞

定価 一部金貳拾月金五拾銭 郵後五銭  
 廣告料 五銭一文字 一行金五拾銭  
 日曜祭日の翌日休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社  
 電話 六三〇

## 煩惱を断じなば佛なり

眞 繼 雲 山

孟子は人の性は善なりといひ、荀子は人の性は悪なりといふた、佛教では何といふかと聞くに無記だと説く無記とは白紙の謂ひである。

人間の本性は素とこれ善惡淨穢をはなれた法性そのもので、禪にはこれを本来の面目といふがわれ／＼本具の主人公である、その白紙の主人公が黒くなり穢るゝば何ゆゑかといふに、煩惱といふお客様が御入來になつたとき初めてそこに凡夫といふ姿が出来上るので、禪にはこれを客人煩惱といふ、この厄介な客人を追ひ出し煩惱を断滅して本来の面目に還らうとするのが自力門の修行である。

本来の面目は無相である無相を體得するの道は離着にある、一切の執着から解脱して然る後空相無相の上に乗生化益のためには女房を持つべし子を設くべし、商賣もすべし乞食もすべしそこに資生産業皆歸佛法といふ大乘佛教は開立される有情非情同事成道、草木國土悉皆成佛といふはその全面目の露呈である。

他力淨土門の説明様式は

恰もそれと正反對で、煩惱のかたまりそのものが人間の姿でありとする、法然上人は「妄念はもとより凡夫の地體なり妄念の外に別の心はなきなり」と申されてゐる、善導大師は「決定して自身はこれ罪惡生死の凡夫、曠劫以來つねに没し常に流轉して出離の縁あることなしと深信す」と申されてゐる。

その出離の縁あることなき凡夫が、どうして救はれるかといふに念佛の一行によつて阿彌陀佛の本願に攝取されるといふのである。凡夫とはもと／＼虚假不實にして信まことの心なきものである、たとへば眞ッ黒の炭團のやうなものである、それが假りにも信心を起し、念佛を籍へる氣になつたことは炭團に一点の光明が点火したのである。しかし誰かマッチをつけるものが無い以上、炭團に火のつく譯はない、念佛を稱へる信心が起きたといふは、實は阿彌陀如來からの廻向（賜もの）であつてその念佛は佛様が稱へさせて下さるのである、佛様のお聲である、佛様の点火だといふのである。

この故に他力淨土門においては救はるべき、絶對の條件として己れが罪惡深重の凡夫たることを要す、煩惱のかたまりといふ本統の自分の姿が見つからねば救濟は成立せぬ、また自ら罪惡深重の凡夫でないといふれば救はるべき必要も餘地も救はるべき體もないわけである。

暗室であればこそ光明が受け入れられるのである、炭團があればこそマッチが点火するのである。炭團がなければマッチはいくらぬ、

◆ 文藝募集 ◆  
 凡夫がなければ佛はいくらぬ凡夫あつての佛であり、迷ひあつての佛である。

親鸞聖人の謂はゆる「煩惱を断じなば佛なり」とは客塵を拂ふたところが本来の面目なりといふ自力門の所説に一致する、しかも聖人は肉身具足のまゝにしては煩惱の断じ難い人間の姿を見ぬかれた。

である。

この故に他力淨土門においては救はるべき、絶對の條件として己れが罪惡深重の凡夫たることを要す、煩惱のかたまりといふ本統の自分の姿が見つからねば救濟は成立せぬ、また自ら罪惡深重の凡夫でないといふれば救はるべき必要も餘地も救はるべき體もないわけである。

暗室であればこそ光明が受け入れられるのである、炭團があればこそマッチが点火するのである。炭團がなければマッチはいくらぬ、

◆ 文藝募集 ◆  
 凡夫がなければ佛はいくらぬ凡夫あつての佛であり、迷ひあつての佛である。

親鸞聖人の謂はゆる「煩惱を断じなば佛なり」とは客塵を拂ふたところが本来の面目なりといふ自力門の所説に一致する、しかも聖人は肉身具足のまゝにしては煩惱の断じ難い人間の姿を見ぬかれた。

「彌陀の五劫思惟の願をよく／＼案ずればひとへに親鸞一人がためなりけり」との御述懐は迷へる者のためにのみ点ぜられたる佛の光明をハッキリと拜されたのである。

◆ 文藝募集 ◆  
 凡夫がなければ佛はいくらぬ凡夫あつての佛であり、迷ひあつての佛である。

親鸞聖人の謂はゆる「煩惱を断じなば佛なり」とは客塵を拂ふたところが本来の面目なりといふ自力門の所説に一致する、しかも聖人は肉身具足のまゝにしては煩惱の断じ難い人間の姿を見ぬかれた。

旭硝子株式會社製  
 赤菱印 板ガラス

製造販賣  
 菓子食器  
 硝子壺  
 其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町（電話一四二番）  
 仙臺市榮町（電話五九七番）

三井

タクシー

電話六八五番

葬具と靈柩自動車御用達

造花

新らしく安い

町川新町平  
 屋本橋

電話一六三番

初夏の海は……

トテモほがらかです  
 新緑と情熱の……  
 ローマンスと郷愁の海邊へ……

一日の清遊を

お試みになりませんか

尼子タクシー

電六四〇番

兩殿下御用上の

御料鹽豚

田町三二三三屋  
 電話三二三番

香りのヨイ

新茶 入荷致しました

◎一斤 二、〇〇 一、六〇

香味本位の本場銘茶

召上りませ

御來店の方へ一服呈上……

電三九六番  
 大勝園

花柳科専門

木村科醫院

■入院自炊の便あり

平町五丁目橋際  
 電話三〇九番

磐城セメント會社特約店

久益屋商店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は久の生命なり

# 石城町村長會から 飛電を發して

## 農村救濟問題の實現を期す

### 昨日協議の結果

既報石城町村長支會では農村救濟運動要望の叫びが上つたので種々是れが善後策を研究中であつたが昨十三日午前十時より平町役場會議室に同支會評議員會を招集協議せる結果目下救濟運動に奔走中の在京鈴木、比佐、佐藤の三代議士及び全國町村長會長帝國農會會長宛に左記の如き飛電を發し着々運動實現に盡力する事となつたと

農村救濟御努力を謝す猶一段の御盡力を以て急速實現を期せられんことを切望す 石城町村長會

## シメリの爲め 出荷薄

### けふの蘭取引

### 昨日の半數位

昨日縣下蘭市場のトップを切つた四倉蘭市場第一日の取引状況は最高廿六圓三十三錢、最低廿一圓六十錢、買馴廿四圓二十錢を以つて白蘭百六十九貫餘の初取引を見たが第二日の本日は打續く曇天の濕氣で出荷は極度に減じ午前中殆んど取引を見ず幸ふじて昨日の半數位かと豫想される尙此の濕氣に依る出荷減少は少くとも十六日頃迄は續き十七日頃より漸く本調子の出荷あるものと見られて居ると

### 磐女生的の水泳場

校長が物色 磐城高等女學校にては例年の通り今夏八月一日より十日間水泳の練習を行ふが本日正木校長は係教諭と共に適當の場所を物色すべく小名濱、江名、豊間方面へ視察に赴いた

### 女教員研究會

創立發起人會 石城郡下各小學校女教員研

究會創立發起人會は既報の如く去る十一月午後一時より平第二小學校に於て橋本

### 茲一兩日中に 梅雨状態薄らぐ

風向が急に南へ變れば 蠶兒の注意が肝要

### 小名濱測候所發表

石城郡小名濱測候所は本日入梅氣候に關して左の如く語つた  
當年は曆面の入梅より早く梅雨状態になりましたが從來の結果より觀れば早く入れば早く明けると  
樣子で あります本日

の氣壓配置では高氣壓が南方へ移動する傾向が現れて來ましたが今朝の高霧も蒸熱の多いのも風向が南寄りになつて來る前徴と存します

### 農家を主とした 二つの低資

### 本日平役場に 縣の通牒來る

農村救濟の叫びが全國的に波及せんとする矢先本日平町役場に縣より二つの低利資金融通の通牒が有つたがいづれも農家を主とし縣への割當總額百三十餘萬圓と云ふ巨額、一ツは肥料購入代支拂資金(縣割當六十七萬圓)また一ツは養蠶應急

### 磐中野球 猛練習は

#### 來月に延期

既報磐城中學校野球部のコーチャア招聘は早稲田より都合悪しき爲め依頼に應じ兼ねる旨の回答に接したので致し方なく今月の練習は取止め來月十日より十日間暫中三十四卒業生にして現に北大野球部の三壘手たる小林正義氏を招き猛練習する事になつたと

### 磐中磐女の 昨日職員庭球

磐城中學校職員對磐城高等女學校職員の庭球試合は昨報の如く昨日午後二時より磐女コートに於て舉行したが左の如く十六對十二のスコアにて磐女職員の勝となつた

### 磐中

### 磐女

紺野	1	3	佐藤
樋口	1	2	酒井
中島	3	2	永井
沖原	3	1	穴井
根本	3	1	志村
梅森	2	3	田中
高水	2	3	淡路
根井	0	3	鈴木
横井	0	3	土岐
大村	0	3	正木

### 織物類の 平町生産高

平町役場で調査した去月中旬より生産された織物類の統計を見ると縮緬が最高で廿四反(價格百八十圓)次は羽二重の六反(四十二圓)玉絹五反(三十五圓)生絹五反(十七圓)其他七反(四十二圓)合計四十七反(三百十六圓)の生産を見たが製造者は一名であると

### 爆彈三勇士

人形を寄附 丁目加

藤松氏は本日第一小學校へ教育参考品として爆彈三勇士の人形を寄附した

### 平町人事

△月見町三一 坂本直吉氏(三六)舊城跡一六引地ツナ(二四)  
△立町一〇三 根本孝一

### 運動靴は……

### 月星

品質は斯界の王 名入れ金具付きの サーピス

大塚運動具部 電話七七番

### 味美! 芳醇!

## 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

# 出刃庖丁を振つて 相手を突殺す

## 相撲競技下相談の揚句 今曉磐炭の椿事

今曉三時廿分頃石城郡内郷村大字宮字金坂坑火人見三吉方にて

### 飲酒中の石城郡小名

演町字古港居住信夫郡笹木野村漁行商人月山喜信(三)が出刃庖丁をふるつて同炭坑坑夫武田康慶(三)の右脇腹を突き同人を殺害逃走したる事件突發急を聞いた平署より伊藤署長始め署員の大半が

### 現場に

急行直に非常線を開き犯人捜索中の處今朝四時頃犯人月山は逃れぬ處と覺悟してか自首し出たので平署に拉致し來つた兇

## 長女と長男を

### 締殺した事件

#### 本日豫審終結す

平町古鍛冶町卅一番地炭坑坑夫高萩信吾(三)の殺人事件は平支部に於て藤原豫審判事係り淺野書記立會の許に審理中の處本日豫審終結し公判に廻送されたが右事件は

被告信吾は妻チヨとの間に五人の子供あり日給一

行の原因は加害者月山は角力上りで同炭坑の

### 角力部

から同夜角力部員たる被害者の武田を始め角力教師市原豊正外四名が角力競技の下相談を爲した揚句飲酒を始め深更に及んで何れも泥酔し被害者武田が加害者月山に向つて「貴様は角力は強くとも柔道はゼロだらう」と擲擧せる爲め喧嘩となり月山は憤慨の餘り傍の出刃庖丁を手にして此兇行に及んだものであると

## 嬰兒殺し看護婦

### 陪審裁判を忌避

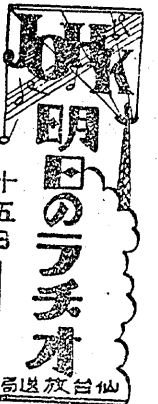
#### 近く平支部で公判

既報石城郡飯野村大字上荒川字林作四十八番地看護婦鈴木トヨ(三)が分娩した嬰兒を締殺し屍體を遺棄したる事件は去る七日殺人罪として豫審終結したが昨日陪審裁判を辭退したので近日中平支部に於て公判開廷されると

## 生活難

### 見るに忍びず

圓五十錢にて細々乍ら圓満に生活してゐたが偶々妻チヨが病氣となり田町安齊外科醫院に入院中本年五月二十五日午後一時頃死亡したので子供の處置に困り將來を案じた結果精神に異常を來たし同日午後九時ころ長女ヒサ



明日のラジオ  
今夜は北東の風  
曇小雨明日北東  
の風晴薄日もあ  
る

### 今晚の部

後六、二〇 コドモの新聞  
松内則三  
後六、二五 カレントトビ  
ツクス、ハロルドパーマ  
後七、三〇 講演「御鷹狩  
の話」鷹匠 村越仙太郎  
後八、〇〇 連続講談「怪  
金の四十圓入り財布を遺失  
したので直ちに平署に届出  
たが間もなく南町六七理髮  
業大谷齊吉君が自宅附近で  
拾得平署に届出た

### 明日の部

力傳助第二席「柴田南玉  
後八、三〇 ギャイオリン  
とピアノ「奏鳴曲第三二  
短調」ニコライシフエル  
ブラツト  
後九、〇〇 管絃樂(新交  
響樂團練習所より中継)  
日本放送交響樂團 指揮  
近衛文麿 宮城道雄

## 湯屋規則の 改正要旨

平町湯屋營業組合では本日午後一時より平署會議室に於て總會を開き去る廿七日付を以つて發令になつた湯屋營業取締規定に關し伊藤平署長より改正の要旨に就き詳細なる改正案指示され

## 平第一小學校へ

### 窃盜忍入頻々

平第一小學校高等科第二學年一組の教室へ昨日放課後何者か硝子窓を破壊して忍入り大和田祐之訓導の机より萬年筆二本及びメリンズ風呂敷、其他生徒の机より萬年筆、鉛筆、インク等を窃盜したる者あり目下調査中であるが今迄も數回金品窃盜あり其の口より見て附近に住む生徒の所爲でないかと見られてゐる

## 優良組合

### 表彰さる

那の爲め一週間前より欠勤中である  
來る十七日午前九時より郡山市公會堂に於いて催される縣下理髮組合の表彰式場に於いて優良組合員として平署管内より表彰されるのは左記三名であると  
石崎幸一 會田タミ(平)

## 生徒体重測定

平第一小學校にては明日より全校生徒に對し順次体重の測定を行ふと

### 平職業紹介所報告

- 求人部  
△子守 十五才迄 尋卒  
月三圓外面談(平町某)  
△子守 十四才迄 尋卒  
仕着小使(平町某)  
△女中 三十三才 尋卒  
月五圓(平町某)  
△小店員 十八才 高卒  
月五圓外仕着(四倉町某)  
△求職の部  
△土工夫 十七才 尋卒  
給料面談(内郷村某)  
△袋張女工 十五才 高卒  
給料面談(好間村某)  
△自動車助手 十九才 高卒  
給料面談(澤渡村某)  
△女中 二十六才 尋卒  
給料面談(双葉郡大久村某)

## 怪俄生徒

### 經過良好

既報發火演習で怪俄した平商業學校五年生齋崎村大字藤原森田正光(三)は新川町木村病院に入院目下加療中に診察書に依れば右肩脚部挫傷並に上口唇挫傷右前膊挫傷であるが經過頗る良好にて併發病を起さざるに限

## 生活難

### 見るに忍びず

双葉郡大久村字小久三八〇居住農家武村直江(三)の次女ハナ(七)は最近父親の手助けをして居たが生活難を免るに忍びず去る十日午後

高野教諭病む 平商業學校教諭高野脩二氏は風

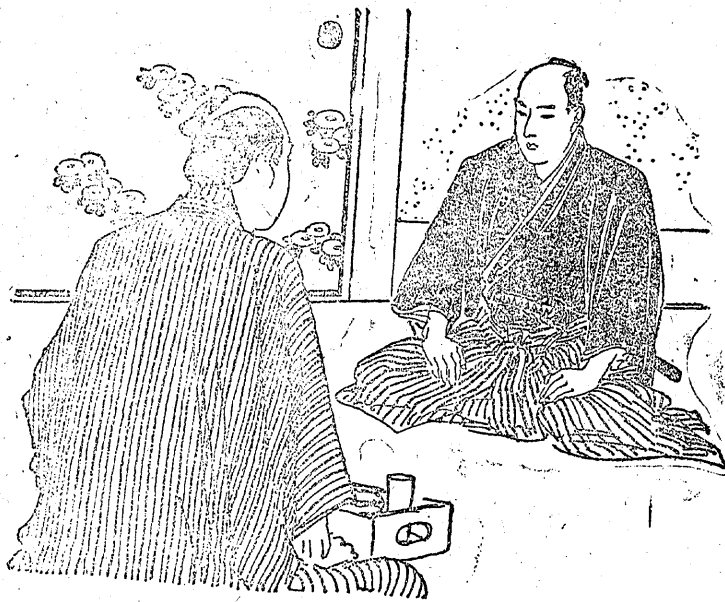
# 幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演  
近藤 紫雲畫

第七十四席 真庭念流達人櫻井五助

虎五郎の許へ立退く  
櫻井五助は金五郎の申す事を聞いて訝しげに何ぞ拙者がこの江戸に居ては宜しくないかと問ひました、其時に金五郎が



金「シテ見ればお前さんはお探ね者だ、わたくしと神原様の家來で岡島佐仲といふ者とは親類だ、この岡島は國でお目附を勤めて居るが、今では江戸へ來て居ります、わたくしの母方の縁者で、先生も聞いた事とは思ひますが、わたくしの親父は御譜代の旗本でそれで、すから親類は待に多い、今度岡島が江戸に來たと聞いて昔話をしようと丸の内の上邸へ訪ねて行くとお前さんの噂が出た」

退いた者で、それに御家老の中根與左衛門に睨まれて居る、さすれば五助の居る事が知れば人数を出して取押へるであらう、あれ程の人物を罪人にいたすはまことに惜しい、今の内に江戸の土地を立退いたが宜しからうと恚う云ひました。

所がお目附岡島佐仲殿の情に依つて拙者は高田を立退いた、恚ういふ譯ゆゑ殿様にお暇願ひを差出すことはならぬ、又村上主殿が腹を切つたは犯せし罪の報い、然らば其一族の村上周一郎が拙者を伯父の敵と思ふは誤りであらう

それにはお前さんの首を狙つてゐる奴があるさうだ  
五「左様かの、拙者の首を狙ひ居る者があるとはそれは村上主殿の甥で周一郎と申す者であらう、然し俺の首を狙ひ居るは筋違ひだナ、主殿の爲に拙者の伯父遠藤仁右衛門は殺された、それに依つて拙者は主殿に腹を切らしたその主殿の親族が老職中根與左衛門老臣共に其事情も訴へず私の計らひにて主殿に切腹なましめたは御家の法に背きし所爲と、恚う與左衛門が申して拙者を重き刑に處せんとした、

金「それはね先生、理窟から云へばお前さんの云ふ處が尤もだ、然し理窟などはこんな場合には役に立ちません、何にしろお前さんが無断で立退いたは不埒な所爲と恚う御家老が思つてゐる、これはお前さんをつかまへる口實だね、どうも仕方が無え一時江戸をお立退きなさい、お前さんが居なければ面倒な事も起りませぬ」  
五「それでは立退くであらう」

五「左様か、それでは虎五郎殿の所へ參ることにはいたでう」  
と金五郎から添書を受取り、里見主計にも此事情を告げ兩三年の内には出府致すであらうと再會を約して寄居の虎五郎の許を指して行く。

看護婦急派の求めに應じます  
平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

傘日とルソラパ 美影點の傘日とルソラパ・頭街の日麗 〇四一電 ヤルツ 四平

内科・小兒科・花柳病科  
**藤沼醫院**  
入院需應 平町紺屋町 電話五〇七番

正札堂の夏服  
黒ヒルセビロ上下 六圓ヨリ  
バンビースセビロ上下 八圓五十錢ヨリ  
ポーラーセビロ上下 九圓ヨリ  
ポーラー最上品三ツ組 拾八圓五十錢  
白ズボン 七拾五錢ヨリ  
**正札堂洋服店** 電四三六

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器  
**關内藥局** 電話四〇番

玉屋洋品店  
平町田町通電話六五六番

**吉田眼科病院**  
平町通、電話六八番